

北大パイオニア人材協働育成システムの構築

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：北海道大学（総括責任者：佐伯 浩）

プロジェクトの概要

多くの有能な若手博士人材が産業界へ進出する好循環を作り出すためには、国内外の企業におけるインターンシップ（他流試合）を中心とする実地型の育成プログラム（実践プログラム）の実施が効果的と考える。

本事業では、多様な人材育成事業と連携しつつ自然科学系を中心とした博士人材（博士研究者(PD)及び博士課程学生(Dc))を対象に受講生の募集を行う。能力適性選抜後、プログラム採用者には賃金やプログラム参加費等の支援を行い、パイオニア実践プログラム（北大諮問連携企業群等での長期インターンシップ及びキャリア形成活動）への参加を義務付けることで、若手人材と産業界の相互理解を促しつつ個々の能力を社会の多様な活動に結びつける能力と自信を持った博士人材を養成する。本事業は、北海道大学が中心となり、地域大学（室蘭工業大学・北見工業大学・帯広畜産大学）及び企業と協働して推進することで産業界のニーズを十分反映させるとともに大学と企業の相互理解を促進しつつ地域に展開する。「北大パイオニア人材育成ステーション」を新たに設置した北大人材育成本部（H21, 4月設置）内に置き、知財・産学連携本部とも連携して本事業を推進する。人材育成本部は、学内の各種人材育成事業を統括・推進・支援する組織であり、本学独自のより一貫した人材育成システムを構築するなかで、企業等と協働して開発する実践プログラムの既存教育カリキュラムへの導入を推進するとともに、本事業終了後も実践プログラムの導入・実施をサポートする体制を確立する。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
S	s	s	a	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

年次ごとの明確な目標設定の下で、実践の結果を分析しフィードバックしてプログラムを着実に効果的に展開している。プログラム養成者数も目標値を超えており、高く評価できる。開拓した連携企業数も急増し、企業、若手人材、教員の出会いの場を通して意識改革を進めつつマッチングを図っており、高く評価できる。実践プログラムの正規カリキュラム化や、北海道内の大学との連携も進んでおり、今後は海外への展開についても期待する。

- ・ **進捗状況**：ライフサイエンス関係人材を中心に養成を行っているが、養成者数は目標値を超えるとともに、就職率もほぼ100%と良好な結果を達成している。実践プログラムを単位化し、学内の改革に結びつけているなど、高く評価できる。
- ・ **イノベーション人材養成システム改革状況**：全学組織として人材育成本部を創設、本事業の実施主体としてパイオニア人材育成ステーションを設置し、効果的に本事業を実施している。プログラムの一部をカリキュラム化し、大学院教育改革へのつながりも見られる。企業や北海道内の大学との連携も順調に進めており、高く評価できる。
- ・ **実践プログラムの開発・運用状況**：産業界との交流を通じて実践プログラムが展開されているが、産業界が単なる外部意見者としてだけでなく、人材養成プログラムの運営に直接コミットできる体制整備を期待する。「緑の会」などを通して企業とのネットワークを構築し、長期取組、共同研究のインフラとして整備・発展させているが、更に国際的展開に努めることを期待する。
- ・ **実施体制**：企業、連携大学が参加する推進委員会、企業10社から成る「幕見の会」を設置し、産業界の意見を反映する取組が行われており評価できる。インターネットを通じた学生と企業との参画の場も構築され、若手人材と企業とのコンタクトに有効に利用されている。
- ・ **今後の進め方**：事業終了後の継続を担保する手立てとして、年間5千万円の自主経費を投入するなど、取組姿勢は高く評価できる。Hi-Systemの活用、全学的な展開も含め、更なる発展を期待する。